第６学年国語科学習指導案

日　時　平成２０年１０月１７日(金)　授業Ⅱ
児　童　男子１３名　女子１０名　計２３名
授業者　舘洞　郷志

１　単元名　表現を味わい、豊かに想像しよう
　教材名　「やまなし」（物語）

２　単元について

（１）児童の実態

物語文の前単元「カレーライス」では、場面ごとの課題をもち、主人公である「ぼく」の心情を表わしている言葉や行動に着目して、個人での読み取り、それを元に学級で課題を解決しながら学習を進めた。主人公の行動や言動に着目して、自分の考えを重ね合わせて発言できる児童が徐々に増えてきた。

また、読書単元の「森へ」の学習では、随筆的な文章を通して、表現のよさ、表現の効果などを感じとって、味わいながら読む学習を行ってきた。本単元の学習にもつながるが、擬態語や擬声語、比喩表現や擬人法などの工夫された表現や、筆者が五感でとらえた様子をとらえ、児童が想像を広げて読むことを中心に学習を進めてきた。

叙述に即して内容を読み取る力はある程度ついてきていると思われる。反面、工夫された表現から想像を広げて読むことを苦手としている児童が多い。

語彙力に関しては個人差が大きい。語彙が豊かな児童は、一つの言葉から多様な考えを書き込んだり、発表したりすることができるが、語彙が少ない児童は書き込む内容に悩み、個別指導や他の児童の発表を手がかりにして、少しずつ書き込みや発表する量を増やしているところである。

音読については、家庭学習で毎日取り組んでいる。初見の文章でもあまりひっかからずに読むことができる児童が多い。しかし、拾い読みに近い児童も数名見られ、それらの児童は単元の中で、何度も繰り返して練習しなければすらすらと読むことができない。音読についても、語彙力と同様に個人差が大きい。

（２）教材について

本単元は、宮沢賢治の物語「やまなし」と、資料として添えられた宮沢賢治の伝記「イーハトーヴの夢」から成り立っている。

「やまなし」は、比喩表現や擬声語・擬態語など、宮沢賢治の独特な表現が駆使された、印象的で深い思想性をもつ作品である。この作品は、ストーリーの展開を追うことよりも、豊かな表現の一つ一つと丁寧に向き合い、一つの言葉、連なった言葉たちがもつ響きやリズム、イメージを味わうことができる作品である。

「イーハトーヴの夢」は、宮沢賢治の世界に深く関わる筆者が、小学生に向けて書きおろした評伝である。この文章を読むことで、児童は、先に読んだ「やまなし」という物語を書いた一人の人間の生き方について触れることができる。広い知識と高い理想をもつ賢治を知り、その賢治が書いた作品への興味も深まるものと思われる。

（３）指導にあたって

単元名にもあるが「表現を味わい、豊かに想像する」ことを中心に本単元の指導を進めていきたい。比喩表現や擬声語・擬態語などの工夫された表現に着目するため音読や視写を大切に扱い、児童一人一人が谷川の情景を想像して読むことができるように進めたい。

そのためにはまず、全員がしっかりと音読できるよう反復して練習するとともに、難語句についての意味を知り、具体物で提示できるものについては（やまなし・ラムネのびん・金雲母・遠眼鏡など）つかむ段階で押さえさせたい。

また、単元を通して、工夫された表現に着目させながら学習を進めていきたいが、単に表現に気づき発表する学習にならないように心がけたい。物語文教材であることを念頭に置き、主人公である「かに」の行動や様子を通して内容を確実に押さえること、板書を通して谷川の情景全体をイメージさせることを意識して授業を展開していきたい。

また、宮沢賢治の作品を読んだことのある児童が少ないことから、宮沢賢治の世界観に触れさせるため、「イーハトーヴの夢」に出てくる作品を中心に朝学習の時間を通して読書活動に取り組ませたい。

「やまなし」の学習や他の作品の読書活動を通して賢治の作品に触れてから、「イーハトーヴの夢」を学習することで、「やまなし」や宮沢賢治の作品のもつ世界観～考えられる作者像～宮沢賢治の人物像に関心をもち学習に取り組むことができるのではないか。

３　指導目標

【関心・意欲・態度】

○　さまざまなジャンルの本に関心をもち、読書への意欲をもとうとしている。

【読むこと】

◎　筆者の心の動きと場面の情景を叙述に即して読むことができる。(読むこと　ウ)

【言語事項】

○　比喩的な表現に注目して、その効果を味わうことができる。（言語　ウ）

４　単元指導計画（全１０時間）

段階	時数	学習活動	指導上の留意点	評価規準
つかむ ２	２	・本単元の学習のめあてを知る。 ・題名と前書き・後書きから、読みの視点をもち全文を読む。感想と疑問をもつ。 ・新出漢字や難語句について確認する。 ・やまなし全体の文章構成を確認し、五月と十二月の概要をとらえる。	・「情景」について説明し（教科書Ｐ２６）情景を想像して読むことを押さえる。 ・前書き～五月～十二月～後書きという大まかな構成に気づかせる。 ・想像しづらいものについては具体物や他の資料を準備する。（ふかめる段階の中でも）	・「やまなし」の情景や言葉の使い方に興味を持ち、読もうとしている。（初発の感想・疑問） ・「やまなし」全体の大まかな内容を理解している。

ふかめる 7	1	①前時の読み取りについての意見を交流し合う。 ・五月の谷川の様子を読む。 （前半　Ｐ４～Ｐ７Ｌ３） ・谷川の情景描写についてとらえ、様子を読み取る。	・工夫された表現（情景を詳しく表す言葉）について全体で押さえる。 ①造語 ②比喩・擬態語・擬声語 ③色・光・(音・におい・速さ)	・五月の谷川の情景描写をとらえ、様子を読み取っている。
	1	②五月の谷川の様子を読む。 （後半　Ｐ７Ｌ４～Ｐ１０Ｌ６） ・「かわせみ」の登場場面の情景描写をとらえ、様子を読み取る。 ・「かわせみ」の出現で変化していく「かにの兄弟」の様子を読み取る。 ・五月の場面について、感じたことをまとめる。	・前時に学習した工夫された表現について想起してから、学習を進める。 ・「かわせみ」の登場場面を本時の中心文として扱い、情景を詳しく表す言葉をしっかりととらえ、想像することができるようにする。	「かわせみ」の描写をとらえ、変化していく「かにの兄弟」の様子を読み取っている。
	1	①十二月の谷川の様子を読む。 （前半　Ｐ１０Ｌ８～Ｐ１２Ｌ１０） ・谷川の美しい情景描写についてとらえ、様子を読み取る。	・五月の場面と同様に、工夫された表現、情景を詳しく表す言葉に着目しながら読むことを確認する。 ・五月の場面で学習した、情景を詳しく表す言葉の読み取りを生かし、見つけた表現を発表したり、自分の抱いたイメージについて書き込んだりできるようにする。	・十二月の谷川の美しい情景描写をとらえ、様子を読み取っている。
	1 **本時**	②十二月の谷川の様子を読む。 （後半　Ｐ１２Ｌ１１～Ｐ１４） ・川に落ちてきた「やまなし」の情景描写をとらえ、様子を読み取る。 ・「やまなし」についての描写をもとに「かにの親子」にとってどんな存在なのかを確かめる。	・本時も工夫された表現、情景を詳しく表す言葉に着目しながら読むことを確認する。 ・五月の「かわせみ」の登場場面と対比して取り上げる。→「かわせみ」と「やまなし」の存在の比較。	落ちてきたやまなしの描写から、かにの親子が感じたことを想像している。
	1	○五月と十二月の違いについて、感じたことを交流する。 ・筆者は、どうして「やまなし」という題名を付けたのかまとめる。	・五月と十二月の学習を教科書やノートをもとに想起し、対比できるようにする。 ・五月と十二月の対比をもとに題名について考えさせる。	・五月と十二月の対比をもとに、2 つの場面の違いをとらえ、題名について自分の考えをもっている。

ふかめる 7	2	○資料「イーハトーヴの夢」を読み、作者の考え方を知る。 ・「イーハトーヴの夢」を読む。 ・作者の生涯や、ものの考え方について話し合う。	・「イーハトーヴの夢」から宮沢賢治の生涯についてつかみ、感想を交流する。 ・「やまなし」や賢治の他の作品についての読んだ感想についても触れさせるようにする。	「イーハトーヴの夢」を読み、作者の生き方や考え方について、感想をもつことができる。
まとめる 1	1	○学習をまとめる。 ・「やまなし」で読み取ったことや他の作品を読んだ感想をもとに、賢治の生き方や考え方についてまとめる。	・「イーハトーヴの夢」、「やまなし」の学習、他の作品を読んだ感想を通して、宮沢賢治の生き方や考え方について交流し合う。	「イーハトーヴの夢」や宮沢賢治の作品を通して、生き方や考え方についてまとめている。

5　本時の指導

（1）目標

やまなしの描写から、かにの親子にとってやまなしがどのような存在であるのか読み取ることができる。

（2）授業の視点

・　工夫された表現や情景を詳しく表す言葉に着目するという既習事項を、本時の学習に生かすためにつかむ段階で想起させる。

・　やまなしが落ちてきた時の描写について、視写・書き込み、学びあいを通して、やまなしに対するイメージを共有することができる。

・　本時の谷川の情景全体をイメージし、学習のまとめに生かされるよう板書を工夫する。

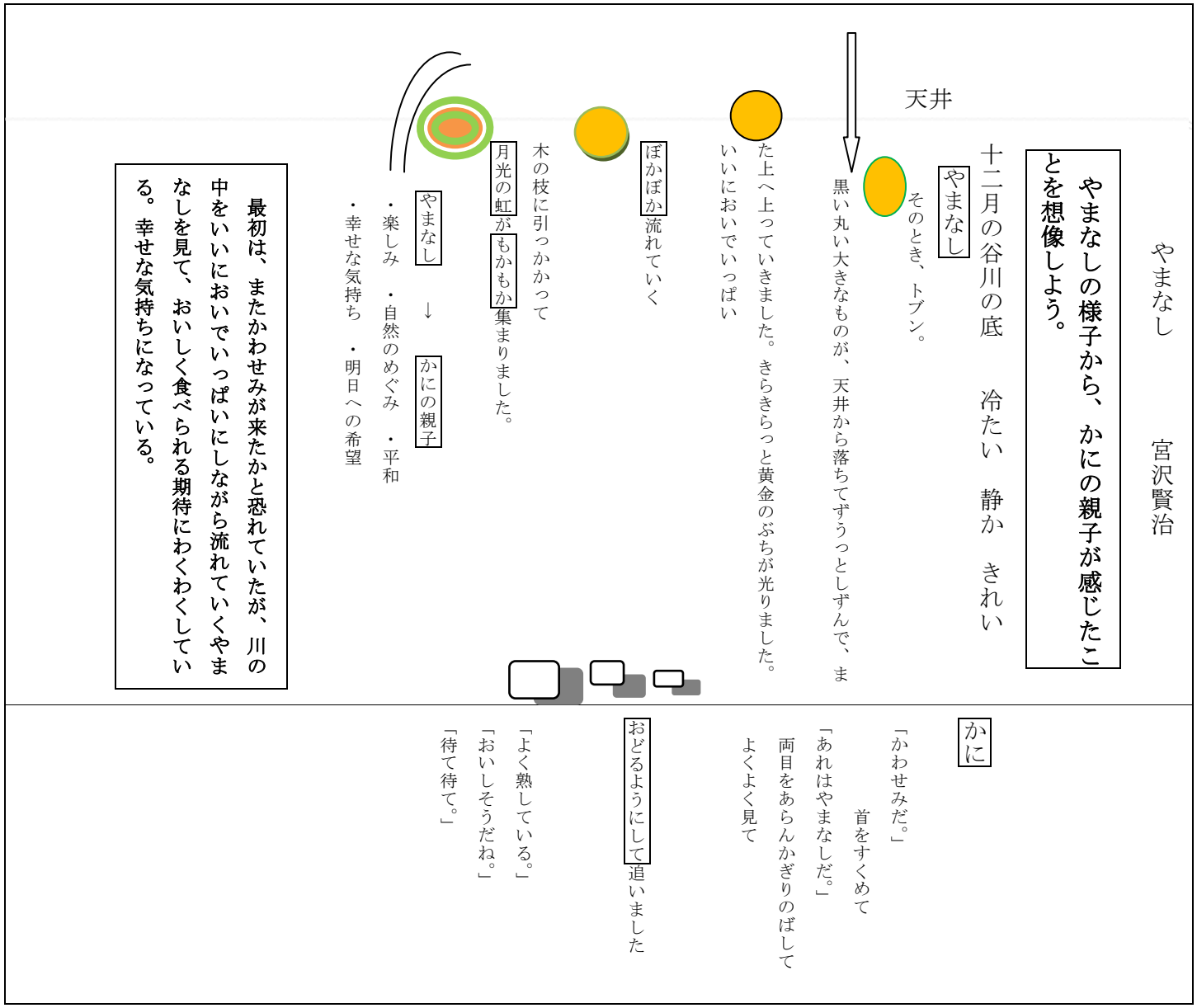
（3）展開

段階	学　習　活　動	教師の働きかけ（・） 児童の反応（→）	指導上の留意点
つかむ 7分	1　前時の学習を想起する。 ・前時のまとめをもとに学習をふりかえる。 ・前時の十二月の川の様子をもとに、工夫された表現・情景を詳しく表す言葉について想起する。	**・十二月の谷川は、どんな様子でしたか。** →静かな川の中が、月に光に照らされている静かな感じ。 →白い丸石や水晶、金雲母など透きとおったきれいなイメージ。 **・情景を詳しく表す言葉について確かめましょう。** ①筆者がつくった言葉（造語） ②音の感じで様子を表した言葉 （擬態語・擬声語） ③他のものに例えて様子を表した言葉 （比喩） ④色・光・音・におい・早さなど （感覚を表す言葉）	・前時の児童のまとめをもとに前時の学習内容のふりかえりを行う。 ・本時も工夫された表現、情景を詳しく表す言葉に着目しながら読むことを確認する。 ・具体的に本文で使われていた文章をもとに、①～④について全体で確かめる。

	2　学習課題を把握する。 やまなしの様子から、かにの親子が感じたことを想像しよう。		
ふかめる 30分	3　場面の音読をする。 （指名読） 4　詳しく読み取る。 （1）一人学びをする。 （2）中心文を視写する。 （3）自分の考えを書き込む。 （4）視写文を詳しく読み取る。 ①やまなしが落ちてきた描写 ↓ ②やまなしが流れていく描写 やまなしがひっかかた描写 ①は視写・書き込み・学び合い ②は、情景を詳しく表す言葉を中心に取り上げて、作業・発表の形式で進めていく。 （5）一人学びをする。② （6）詳しく読み取る②	**・やまなしの様子が詳しく書いてあるところはどこなのか、考えながら読みましょう。** **・やまなしが落ちてきた時の様子が、詳しく書いてある所にサイドラインを引きましょう。** →そのとき、トブン。 黒い丸い大きな・・・・光りました。 **・視写、書き込みを始めましょう。** **・書き込んだことを、発表しましょう。** →トブン（落ちてきた音、あまり速くない あまり大きくはない、重くはない） →黒い丸い大きなもの （正体がわからない、果たして何だろう） →ずうっとしずんで （ゆっくりと底の方まで沈み） →きらきらっと黄金のぶちが光りました。 （きれいな、美しく金色が混じって輝いている） **・かにたちの様子はどうでしたか。親子で違いはありましたか。** →子どもらのかには、首をすくめて「かわせみだ。」と言いました。 →お父さんのかには、両方の目をあらんかぎりのばしてよくよく見てから、「あれはやまなしだ・・・。」と言いました。 **・その後のやまなしの様子、それを追いかける、かにたちの様子を読み取りましょう。** **・読み取ったことを発表していきましょう。（やまなし）** →そこらの月明かりの水の中は、<u>やまなしのいいにおいでいっぱい</u>でした。	・児童の発表が、どの言葉からイメージしたものか、叙述に即して発表させる。 ・トブンについては、もっと大きい場合の音は（例：ドブンなど）と比較しイメージさせる。 ・かにの動きとやまなしの様子を並行して見やすいように、板書していく。 ・サイドラインを引き終わった児童は、一人学びの中で視写書き込みを行う。

ふかめる 30分		→ぼかぼか流れていく。 →やまなしは横になって木の枝に引っかかって止まり、その上には月光のにじがもかもか集まりました。 →「よく熟している。」 **（かに）** →おどるようにして追いました。 →　「おいしそうだね。」 　「待て待て。」 **・五月の場面で登場した「かわせみ」はかににとっては、どんなものでしたか。** →恐ろしいもの。恐怖。死のイメージ **・やまなしは、かにの親子にとって、どんなものなのでしょうか。** →楽しみをあたえてくれる。 →自然の恵みを与えてくれる。 →幸せな気持ちにしてくれる。 →明日への希望を与えてくれる。	・「いいにおい」「ぼかぼか」「月光のにじ」「もかもか」から、やまなしのもつイメージを児童の発表から深めあう。 ・「おどるようにして」や会話の表現から、かにたちのやまなしに対して、抱いている気持ちを読み取らせる。 ・次時に五月と十二月の場面の対比を行うが、本時のやまなしの存在を確かめるために、かわせみと対比させる発問をする。
まとめる 8分	5　学習のまとめをする。 ・まとめを書く。 ・まとめの音読をする。 （一斉読） 6　次時の予告をする。	**・今日の学習をふりかえって、「自分らの穴に帰っていく時、かにたちはどんなことを考えていたのか。」想像して書きましょう。** 最初は、またかわせみが来たかと恐れていたが、川の中をいいにおいでいっぱいにしながら流れていくやまなしを見て、おいしく食べられる期待にわくわくしている。幸せな気持ちになっている。 **・まとめの音読をしましょう。** **・十二月の場面は、一言で言うとどんな場面でしょうか。** →平和な場面、幸福を感じる場面 　希望を感じる場面、静かな場面	・本時の課題と学習内容を板書で振り返る。 ・数名に発表させ、読みとった内容を共有する。

（４）具体の評価規準

A　十分満足	B　おおむね満足	C　努力を要する児童への支援
やまなしについて詳しく書かれた描写を読み取り、かにの親子がやまなしに抱いている気持ちの変化を読み取っている。	やまなしについて詳しく書かれた描写を読み取り、かにの親子がやまなしに抱いている気持ちを読み取っている。	やまなしの落ちてきた瞬間の視写、書き込み、学び合いから、想像できなかった言葉についてもとらえさせるようにする。また、他の児童の発言したことも、共感できる内容があれば書き込ませ、まとめに生かせるようにする。

（５）板書計画